

【資料4】

第2回幡多地域アクションプランフォローアップ会議資料

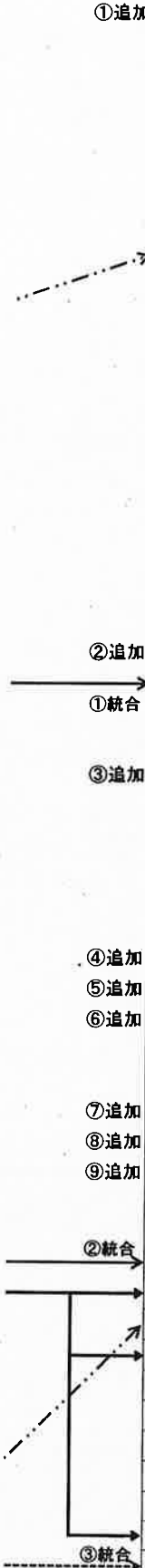
平成28年2月15日

平成28年度幡多地域アクションプランの追加、削除、拡充等（予定項目）について

平成28年度 幡多地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成27年度)	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	
		12	12	14	14	5	12	
1	水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成	●	●	●	●	●	●	①削除
2	洋ランのブランド確立・流通促進事業	●						
3	有機農業普及・拡大事業			●				②削除
4	6次産業化推進による地域農業振興事業				●			
5	三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築					●		
6	「若山権」ブランド復活プロジェクト						●	③削除
7	弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画						●	④削除
8	森の工場・間伐の推進	●	●	●	●	●	●	⑤削除
9	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進			●				
10	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業				●			
11	地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進	●						
12	宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進	●						
13	民間企業との連携による水産物の販路拡大	●			●			
14	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業	●						
15	加工場の整備による付加価値の高い養殖魚の加工品の販売	●						
16	サメ漁業の復活に向けた取組		●					⑥削除
17	宗田節の販路拡大に向けた取組		●					
18	「川辺の暮らし」を支える豊かな四万十川再生プラン			●				
19	キビナゴ加工商品の生産体制強化				●			
20	大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大				●			
21	衛生管理強化による干物等水産加工品販路拡大事業				●			
22	直七の生産、加工、販売の促進	●						
23	地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり	●						⑦削除
24	土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)		●					
25	地域資源を統合したプログラム構築によるしみずの元気再生事業		●					
26	土佐清水発！宗田節が良くなる加工施設整備・販路拡大事業		●					
27	地元農産物を使った商品開発事業			●				⑧削除
28	「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進			●				
29	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト			●				
30	四万十牛の商品開発・販売			●				
31	西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)			●				
32	四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略の構築			●				
33	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)				●			
34	莓を核とした6次産業化				●			
35	月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり				●			
36	黒潮印の商品開発				●			⑨削除
37	カツオ文化のまちづくり事業					●		
38	佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進					●		
39	水産物加工施設整備事業					●		
40	防災関連新産業創造事業					●		
41	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●	分割
42	竜串観光再発見事業		●					
43	土佐清水まるごと戦略観光展開事業		●					
44	足摺・竜串を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大		●					
45	四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進			●				
46	竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業				●			
47	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進						●	
48	幡多広域におけるスポーツツーリズムの推進を核とした交流人口の拡大	●	●	●	●	●	●	

						No.		改定案(平成28年度)
宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町			
12	8	16	12	7	8			
●							1	高知県産洋ランのブランド確立・流通促進事業
①追加		●					2	四万十ぶしゅかん産地の形成とブランド化事業
			●				3	6次産業化の推進による地域農業振興事業
				●			4	三原村ユズ産地化計画の推進事業
		●					5	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売推進事業
			●				6	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業
●			●				7	すくも漁協と民間事業者の連携による水産物の加工・販売事業
●							8	すくも漁協による水産物の加工・販売事業
●							9	レストランチェーンと連携した地域水産物の流通・加工体制の推進事業
●							10	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業
●							11	宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売事業
		●					12	四万十川の環境と資源を活用した産業振興事業
			●				13	キビナゴ加工商品の生産販売体制強化事業
			●				14	大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大事業
			●				15	衛生管理強化等による干物等水産加工品販路拡大事業
●							16	直七の生産、加工、販売の促進事業
②追加							17	昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等事業
①統合		●					18	土佐清水メジカ関連産業再生プロジェクト
		●					19	だしが良くて宗田節商品の販路拡大促進事業
③追加	●	●	●	●	●		20	幡多地域産品販売体制構築事業
		●					21	「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化推進事業
		●					22	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト推進事業
		●					23	四万十牛の生産・販売拡大事業
		●					24	売り出せ西土佐プロジェクト推進事業(拠点ビジネス)
		●					25	四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略構築事業
④追加		●					26	地元農産物等を活用したペット関連商品の開発・販売拡大事業
⑤追加		●					27	四万十の地域食材を中心とした商品開発・販売事業
⑥追加		●					28	素材の特性を活かした地域色豊かな冷凍加工食品の開発・製造・販売事業
			●				29	大月町まるごと販売事業(拠点ビジネス)
			●				30	莓を核とした6次産業化確立事業
⑦追加				●			31	三原村のどぶろくによる地域活性化事業
⑧追加				●			32	地域産トマトの加工・販売の推進事業
⑨追加					●		33	天日海塩を活用したビジネス推進事業
					●		34	佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進事業
					●		35	幡多地域の資源を活用した水産加工品等販売促進事業
②統合					●		36	地域資源を活かした防災関連商品推進事業
	●	●	●	●	●		37	幡多広域における潜在型・体験型観光推進プロジェクト
	●	●	●	●	●		38	幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口拡大プロジェクト
	●						39	宿毛市観光振興事業
	●						40	竜串地域観光再生プロジェクト
	●						41	土佐清水まるごと戦略観光展開事業
	●						42	土佐清水ジオパーク推進事業
		●					43	四万十市の地域資源を活かした通年・潜在型観光推進事業
			●				44	大月町自然体験・環境教育交流推進事業
				●			45	三原村の魅力を活かした潜在型観光推進事業
③統合					●		46	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光推進事業



幡多地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加（新規）

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	四万十ぶしゅかん産地の形成とブランド化事業（四万十市） 【事業主体】四万十市、生産者、四万十ぶしゅかん（株）	地域特産のぶしゅかんを産地化し、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。
2	昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等事業（宿毛市） 【事業主体】（有）菱田ベーカリー	昭和40年代から製造し、地元で愛されている「羊羹パン」など昭和レトロをコンセプトとした商品の販売を拡大し、全国に展開していくことで、独自ブランドを確立するとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。
3	幡多地域産品販売体制構築事業（幡多地域全域） 【事業主体】宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町、生産者、加工事業者	幡多の市町村や民間事業者等が連携を図りながら、地域内にある地域食材、加工品等の資源を結びつけ、量販店でのフェア等の開催を通じた一次産品や特産品、観光資源等の情報発信・PRを一体的に行うことにより、さらなる地域産品の販路開拓及び販売の拡大、並びに交流人口の拡大につなげる連携体制を構築することで地域活性化を図る。
4	地元農産物等を活用したペット関連商品の開発・販売拡大事業（四万十市） 【事業主体】WAN LIFE	四万十市の農産物を中心に、県産素材にこだわったペット関連商品を開発し、地産外商を進めることで、地域経済の活性化を図る。
5	四万十の地域食材を中心とした商品開発・販売事業（四万十市） 【事業主体】有限責任事業組合 LLP しまんと	四万十川流域の素材を使用したかりんとう等の商品開発により、県内外での販売を拡大し、生産者の所得向上と安定した収入の確保を目指す。
6	素材の特性を活かした地域色豊かな冷凍加工食品の開発・製造・販売事業（四万十市） 【事業主体】（有）和	地域色豊かな食材を活用した冷凍加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。
7	三原村のどぶろくによる地域活性化事業（三原村） 【事業主体】三原村どぶろく組合	地域の特産品である「どぶろく」にかかる村内の組織体制を強化し、地域が一体となって販売促進を図ることで地域活性化につなげる。

8	地域産トマトの加工・販売の推進事業（三原村） 【事業主体】（株）ベストグロー	地域産トマトを活用した加工品の生産体制を強化するとともに、地産外商による販路拡大を進めることで、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。
9	天日海塩を活用したビジネス推進事業（黒潮町） 【事業主体】（有）ソルティープ	黒潮町の特産品づくりの取り組みとして推進する『さしすせそ』計画の中心的な役割を担う天日海塩の増産体制を整備し、加工品の増産や新たな商品の開発を行うとともに、塩に関連した観光体験事業を強化、充実させることで、黒潮町の新たな地域ビジネスを確立し、他事業者と連携を図りながら、地域の所得向上につなげる。

■削除（再構築）

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成（幡多地域全域） 【事業主体】 JA 高知はた	産業成長戦略の位置付けのもとに全県的な支援を継続していく。
2	No. 3 有機農業普及・拡大事業（四万十市） 【事業主体】 四万十市	「有機農業四万十市」の定着を目指したが、現在の活動では取り組みの広がりに限界があるため、今後の取り組みの方向性や推進体制について再検討が必要となったことから削除する。
3	No. 6 「若山楮」ブランド復活プロジェクト（黒潮町） 【事業主体】 黒潮町、黒潮町佐賀北部地域協議会	ビジネスにつながる事業展開が見込めないことから、今後は集落での伝統文化の継承として集落活動と一体的に取り組みたいとの地域の意向である。
4	No. 7 弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画（黒潮町） 【事業主体】 七立栗生産組合、黒潮町	ビジネスにつながる事業展開が見込めないことから今後は集落活動として取り組みたいとの地域の意向である。
5	No. 8 森の工場・間伐の推進（幡多地域全域） 【事業主体】 森の工場の認定を受けた事業者	産業成長戦略の位置付けのもとに全県的な支援を継続していく。

6	No. 16 サメ漁業の復活に向けた取組（土佐清水市） 【事業主体】土佐清水市水産振興協議会	加工品製造業者の廃業により、商品の製造ができなくなり、新たな事業主体による事業展開も見込めないことから削除する。
7	No. 23 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり（宿毛市） 【事業主体】幡多美味工房、地域事業者等	地域の素材を活かした新商品の開発も進み、販路拡大についても一定の成果は出ている。しかしながら、今後の更なる取り組みの展開が見込まれないことから削除する。
8	No. 27 地元農産物を使った商品開発事業（四万十市） 【事業主体】四万十市	四万十市の農商工連携プロジェクト事業として、商品開発に取り組んできた。次期産業振興計画では、当該事業に参加した事業者の取り組みを新たな地域 AP として個別に位置づけることから削除する。
9	No. 35 月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり（大月町） 【事業主体】大月町アウトソーシング研究会、四万十かいどう推進協議会大月支部	体験メニューや関連商品も完成し、イベントの実施等により来場客数も増大した。地域活性化に貢献するなど、到達目標も達成できた。今後の更なる取組の予定はないことから削除する。

■その他(統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 17 宗田節の販路拡大に向けた取組（土佐清水市） 【事業主体】宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市 No. 24 土佐清水市地域再生計画（大岐地区等の開発計画）（土佐清水市） 【事業主体】土佐食（株）、土佐清水市 No. 25 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業（土佐清水市） 【事業主体】（株）土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市	【統合】土佐清水のメジカ関連産業の振興に向け、これまでそれぞれの事業者や団体の取り組みを地域アクションプランに位置づけて商品造成、販売促進等に取り組んできたが、土佐清水市の第三セクターのホールディング化に伴い地域アクションプランを一本化し、市全体で一体的に取り組むを推進することになったため、「土佐清水メジカ関連産業再生プロジェクト」として統合する。
2	No. 36 黒潮印の商品開発（黒潮町） 【事業主体】黒潮町、（株）黒潮町缶詰製作所 No. 40 防災関連新産業創造事業（黒潮町） 【事業主体】黒潮町、（株）黒潮町缶詰製作所	【統合】2つの地域アクションプランとも黒潮町の地域資源を活用した商品の製造販売を行う取り組みであり、こうした取り組みについては、（株）黒潮町缶詰製作所が主体となり一体的な取り組みを進めていることから、「地域資源を活かした防災関連商品推進事業」として統合する。

3	<p>No. 37 カツオ文化のまちづくり事業（黒潮町） 【事業主体】 黒潮町商工会、黒潮町、高知県漁協</p> <p>No. 47 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進（黒潮町） 【事業主体】 NPO 砂浜美術館、黒潮町</p>	<p>【統合】 現在、黒潮町が策定している地方創生の総合戦略において、町内の地域資源を活かした体験型観光を一体的に取り組むことになったため、黒潮町の観光振興に関連する 2 つの地域アクションプランを「黒潮町地域資源を活かした体験型観光推進事業」として統合する。</p>
4	<p>No. 41 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進（幡多地域全域） 【事業主体】 （一社）幡多広域観光協議会</p>	<p>【分割】 平成 26 年度に幡多広域全体の観光振興を目的として「幡多広域観光振興計画」を策定し、市町村単位の地域アクションプランとして位置付けのなかった宿毛市及び三原村が行う旅行商品造成等の取組に関して、より詳細に進捗状況を把握し、必要なサポートを行うため、「幡多広域における滞在型・体験型観光の推進」から、「宿毛市観光振興事業」と「三原村の魅力を活かした滞在型観光推進事業」を分割する。</p>

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名 関連素材	ぶしゅかん
------	------	-------------	-------

現状・課題	<p><現状></p> <p>四万十市で古くから親しまれている「ぶしゅかん」は、主に農家の庭先などで植えられてきた香酸柑橘で、ほぼ市内で流通している作物である。近年ぶしゅかんの爽やかな香りやまるやかな酸味、農薬を使用せずに栽培でき、収穫の手間も他の果樹と比べて容易であることなど、その独自性と可能性に期待が集まっていることから、市外・県外に向けた青果と果汁の出荷や加工品の販売を行うことにより、農家所得の向上を目標とした産地化を目指している。</p> <p>平成26年度からは、苗木や鳥獣害防護柵の補助による産地化推進の取組や首都圏でのキャンペーン、各種商談会への出展、県内でのCM放映等のPR活動を行い、徐々にではあるが取引の実績も増加してきているが、まだまだ認知度が低い状態である。</p>
	<p><課題></p> <p>栽培管理方式（四万十川のイメージや皮を利用するための使用農薬の低減等）の確立、また産地化推進にあたり認知度やブランド力を高める必要がある。さらに、将来生産量が増えた場合の集出荷体制や加工品生産・販売体制の構築が不可欠である。</p>
今後の方向性	<p>・産地を形成し、安定供給するためには、生産量を増加させていく事が必要となっている。そこで市内生産者が取り組みやすく、まとまりのあるほ場で効率的に生産していくことで、産地化を推進したい。</p> <p>・現在は、各農家に販路がなく、出荷しないまま放置しているぶしゅかんを効率よく集荷していく体制を整備し、青果出荷量を増加させ、安定供給することで農家所得の向上とぶしゅかん産地としての知名度向上を目指す。</p> <p>・加工品生産においては、省力化等による低コスト化や大手企業との取引を視野に入れた衛生管理体制の強化を検討していく必要がある。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十ぶしゅかん産地の形成とブランド化事業
	関係市町村名	四万十市

事業の概要	<p>地域特産のぶしゅかんを産地化し、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。</p> <p>(1) 産地化の推進及び生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗木、鳥獣害防護柵の補助 苗木供給体制の確立 栽培基準の徹底及び栽培管理技術の向上 生産者組織の設立及び育成 <p>(2) 集出荷体制の効率化、生産体制及び衛生管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者組織による効率的な集出荷体制の構築 低コスト化、省力化に向けた設備導入の検討 収穫量に見合う施設整備の検討 <p>(3) 展示会や商談会への出展及び量販店等への営業活動、各種媒体でのPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会、展示会、物産展、イベント等への参加 各種媒体でのPR活動の実施、効果の検証
	<p>【事業主体】</p> <p>四万十市・生産者・四万十ぶしゅかん（株）</p> <p>【関係機関】</p>

事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>四万十市・生産者・四万十ぶしゅかん（株）</p> <p>【関係機関】</p>
-------	---

取組手順	事業実施 【H28】	1年後	2年後	3年後	4年後
		【H29】	【H30】	【H31】	【H32~】
産地化の推進（栽培面積の拡大）	<ul style="list-style-type: none"> 苗木購入支援、鳥獣害防護柵等資材の補助 苗木供給体制の確立 				
生産量の増加	<ul style="list-style-type: none"> 栽培基準の徹底 栽培管理技術の向上 生産者組織の設立 				
集出荷体制の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 生産者組織による効率的な集出荷体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者組織の育成（勉強会・研修会・視察等） 			
生産体制及び衛生管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 低コスト化、省力化に向けた設備導入の検討 収穫量に見合う施設整備の検討 				
展示会や商談会への出展及び量販店等への営業活動	<ul style="list-style-type: none"> 商談会・展示会への出展 県内外の物産展（イベント）への出展 首都圏等の大消費地でのブランディングキャンペーンの実施 				
各種媒体でのPR活動	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体でのPR活動の実施、効率的なPR活動の検証 				

指標・目標	項目 (期末：月末)	事業実施 【H28】	1年後	2年後	3年後	4年後
			【H29】	【H30】	【H31】	【H32~】
【設定根拠】	栽培面積 (a)	840	1,140	1,440	1,440	1,440
	生産量合計 (kg)	25,600	31,000	39,000	46,800	60,400
	うち園地分	8,600	12,000	19,000	26,800	40,400
	うち周辺農家買取分	17,000	19,000	20,000	20,000	20,000
		【推計の考え方】				
		<ul style="list-style-type: none"> 栽培面積、生産量については、既存生産量に当計画により増産された生産量を合算 生産量は園地形成されたほ場の生産量と周辺農家買取（既先集荷分）を分けて算出している 				
		【考え方】				

総事業費等	総事業費 (内訳 国： 千円 (うち 28年度 千円) 県： 市町村： その他：)
	<p>想定する支援事業 (補助金名称、人的支援の内容、その他)</p> <p>国： 県： 人的支援：</p> <p>その他：</p>
備考	

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	宿毛市	素材名 関連素材	昭和レトロなパン等の商品
<p><現状> 昭和26年に丸菱製パンとして創業開始。昭和40年代頃から学校給食の普及とともに、製造工程での機械化を進め、高知県の学校給食会の指定工場となった。昭和54年に現在の有限会社菱田ベーカリーに社名変更する。近年は学校、病院、施設の給食用パンを安定的に供給するとともに、昭和40年代から製造し、現在も地元で親しまれている「羊羹パン」を高知県以外でも販売をすることを旨とし、冷蔵、冷凍での商品化・流通に取り組んでいる。その結果、全国での商談会等への出展など、販路開拓に取り組み、今まで年3万個程度しか販売していなかった「羊羹パン」が、平成27年度は高知県内外で30万個以上の販売となった。また、地元のニーズに応える形で、高知県産の米粉を使用した「ラスク」を防災対策用として販売を開始するなど、新商品開発にも積極的に取り組んでいる。</p> <p><課題> 今後、更に全国への販路拡大を目指すためには、商談会等への継続的出展はもちろんのこと、県外での店頭販売やインターネット販売が課題となってくる。また、今まで以上に衛生管理体制を強化することも必要である。</p>			
今後の方向性	<p>○販路拡大事業 羊羹パン及び「昭和レトロ」をコンセプトにした自社商品の販売拡大 ○新商品開発 昔からある昭和レトロな商品の復刻版開発</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等事業
	関係市町村名	宿毛市

事業の概要	<p>昭和40年代から製造し、地元で愛されている「羊羹パン」など昭和レトロをコンセプトとした商品の販売を拡大し、全国に展開していくことで、独自ブランドを確立するとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。</p> <p>(1) 販路拡大 ・商談会等への参加 ・県外での店頭販売 ・インターネット販売の拡大</p> <p>(2) 新商品の開発 ・昔からある昭和レトロな商品の復刻版開発</p>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 有限会社 菱田ベーカリー</p> <p>【関係機関】</p>
-------	--

取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
販路拡大	・商談会等への参加、県外での店頭販売	→			
新商品の開発	・アドバイザーの導入 ・羊羹パン等の商品改良	・昭和レトロをコンセプトにした新商品の開発	→		
			・自社サイトによるインターネット販売の開始・拡大	→	

指標・目標	項目 (期末：月未)	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	売上高（千円）	35,000千円	38,000千円	50,000千円	60,000千円	65,000千円
	【設定根拠】	【推計の考え方】 これまで30万個を出荷してきた羊羹パンの2個入り商品をH28年度からつくり、包装コストの削減と販売単価のアップにより利益増を図る。H29年度に昭和レトロをコンセプトにした新商品を開発に着手し、H30年には販売開始。H31年度からはECサイトでの自社販売に力を入れていきたい。				
		【考え方】				

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち 28年度 千円)</p> <p>(内訳 国： 県： 市町村： その他：)</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援：</p> <p>その他：</p>
備考	

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	幡多地域全域	素材名 関連素材	幡多地域の一次産品及び加工品
------	--------	-------------	----------------

現状・課題	<p><現状></p> <p>幡多地域では、これまでに各市町村が独自で物産販売等のPR活動を行ってきたが、単独の市町村では商品ラインナップや参加事業者に限りがあり、規模的にも効果的にも限定的であった。</p> <p>しかし、平成27年11月に岡山県津山市のスーパーで実施した『幡多フェア』では、幡多6市町村の担当者が開催までに幾度となく協議を重ね、各事業者との調整を行い、連携してフェアに臨むことができた。この取り組みがきっかけとなり、今後も幡多地域が一体となった取組を継続的に実施することが確認され、現在組織づくりに向けた協議が行われている。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進組織の設立及び事業計画の策定 ・各市町村及び生産者、加工事業者との協議、調整 ・生産者や加工事業者が参加しやすい仕組みづくり ・フェア等のPR活動を通じた販路開拓、販路拡大
今後の方向性	<p>生産者及び加工事業者の所得向上による地域活性化を目的として、幡多地域が一体となり、スケールメリットを活かした外商活動を持続的に展開するための推進組織体制の構築及び事業計画の策定を行い、百貨店やスーパー等での物販イベント『幡多フェア』を実施することにより幡多地域のモノ・コト・ヒトの認知度を高め、量販店等との継続取引（棚取り）の実現、販路の開拓及び拡大を目指して活動していく。</p> <p>また、幡多地域が有する観光資源等の情報発信や観光PRも行い、交流人口の拡大も促進していく。</p> <p>さらに、各市町村の生産者や事業者がフェア等を通じて交流し、親交を深めることにより、連携した新たな取組への発展も期待できる。</p>

『有望素材』を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	幡多地域産品販売体制構築事業
	関係市町村名	幡多地域全域

事業の概要	<p>幡多の市町村や民間事業者等が連携を図りながら、地域内にある地域食材、加工品等の資源を結びつけ、量販店でのフェア等の開催を通じた一次産品や特産品、観光資源等の情報発信・PRを一体的に行うことにより、さらなる地域産品の販路開拓及び販売の拡大、並びに交流人口の拡大につなげる連携体制を構築することで地域活性化を図る。</p> <p>(1) 推進組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進組織の設立 ・事業計画の策定 ・各市町村等による協議 <p>(2) 販路開拓及び販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェア等の開催 ・県外からのバイヤー招聘事業 ・商談会、展示会への出展 ・販売促進ツールの作成
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町、生産者、加工事業者</p> <p>【関係機関】</p>
-------	---

取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】	
主な内容・スケジュール	<p>推進組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進組織の設立 ・事業計画の策定 ・事業推進体制の仕組みづくり及び体制の構築 	→				
	<p>販路開拓及び販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェア等の開催 ・県外からのバイヤー招聘事業 ・販売促進ツールの作成 	→ 商談会・展示会への出展 →				

項目 (期末：月)	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
【設定根拠】	【推計の考え方】				
	【考え方】				

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち 28年度 千円)</p> <p>(内訳 国： 県： 市町村： その他：)</p>
	<p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援：</p> <p>その他：</p>
備考	

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名 関連素材	地域産品（はちきん地鶏、宗田筋、きびなご、芋、シイラ等） 不織布
------	------	-------------	-------------------------------------

現状・課題	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WAN LIFEは、平成26年よりペット美容（トリミング）とペットホテルを主軸にペット関連産業を展開している。平成26年ペットフード工業会調査によると、現在ペット数は2,520万匹、関連市場は1兆4,000億円、ペット一匹当たりの支出は増加傾向にあり今後さらに成長する見込みである。 ・このような状況の中、ペット用品、特にペットフードに関する安全性が求められていることから、WAN LIFEでは四万十市を中心とする県産素材を用い、県内加工業者に製造を委託、添加物を使わない「すべてが高知県産」にこだわったペットフードを販売している。 ・平成27年度には、ペットフードの販路開拓等にかかるステップアップ補助金を活用し、パンフレット等販促資材を作成して販売拡大に取り組んでいる。今後は、より本格的に新商品開発、販促活動を展開する予定。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる売上拡大のためには、新規販路の開拓に向けた営業力強化が必要。 ・ニーズに合った新商品開発及び商品のブラッシュアップ
	今後の方向性

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	地元農産物等を活用したペット関連商品の開発・販売拡大事業
	関係市町村名	四万十市

事業の概要	<p>四万十市の農産物を中心に、県産素材にこだわったペット関連商品を開発し、地産外販を進めることで、地域経済の活性化を図る。</p> <p>(1) 商品開発及び販路拡大・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元素材を利用した新商品開発 ・販促活動（各種商談会への参加、商品PR及び営業活動など） <p>(2) 生産体制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設・設備等の整備検討 					
	事業主体等	<p>【事業主体】 WAN LIFE</p> <p>【関係機関】</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	商品開発	・地元素材を利用した新商品開発	商品ブラッシュアップ			
	販促活動	・各種商談会への参加、商品PR及び営業活動など				
	生産体制の充実・強化	・加工施設・設備等の整備検討				
指標・目標	項目 (期末：10月末)	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	売上高（千円）	6,074	7,513	9,168	10,352	11,070
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のペットフードの売上状況や開発予定商品のアイテム数や販売予定価格などに基づいて策定した事業収支計画による。 ・新商品の開発及び展示商談会への出展などによる営業活動を行い、販路拡大に努める。 <p>【考え方】</p>				

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち 28年度 千円)</p> <p>(内訳 国： 県： 市町村： その他：)</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援：</p> <p>その他：</p>
	備考

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名 関連素材	かりんとう 地域食材（青ざのり、柚子、玉ねぎ等）
------	------	-------------	-----------------------------

現状・課題	<p><現状></p> <p>有限責任事業組合LLPしまんとは平成21年8月に設立され、これまでに四万十市の農工商連携プロジェクト推進支援事業や県の産業振興推進総合支援事業（ステップアップ事業）を活用し、商品開発や店舗の運営、商談会への出展等による販路開拓などの活動を展開してきた。主力商品は、四万十川流域の素材を活用し、製法にこだわった『かりんとう（しまんとう）』であり、その素材でナチュラルな味わいや食べやすさから、徐々に販路を拡大している。その他にも、同じく四万十の素材にこだわった『野菜クッキー』などの商品開発を行い、ラインナップの充実を図るとともに、販売促進活動も積極的に行っている。</p> <p>しかし、核となる大口の取引先がないこと、『しまんとう』以外に主となる商品がないこと、一般的な『かりんとう』より価格が高く地元での消費が少ないなどの課題があり、一層の販路拡大やブラッシュアップも含めた商品の研究・開発が求められている。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造設備が不十分のため生産コストが高み、商談等において価格が原因となり、取引が成立しない場合がある。同様に、生産コストが高いことが商品単価に影響し、一般的な『かりんとう』より高額なことから、地元での消費が少ない状態である。 ・主力商品が『しまんとう』のみであり、現在の生産能力や商品ラインナップでは販路拡大への限界が懸念される。 ・大口の取引先が確保できていないことから、安定的な経営環境が整っていない。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・製造の効率化、省力化による生産の低コスト化を図り、県外での競争力のある価格設定をめざす。 ・パッケージを含めた既存商品のブラッシュアップや新商品の開発を進め、地元での消費拡大や認知度向上を図るとともに、商品ラインナップの充実による販路拡大を行う。

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十の地域食材を中心とした商品開発・販売事業
	関係市町村名	四万十市

事業の概要	<p>四万十川流域の素材を使用したりんとう等の商品開発により県内外での販売を拡大し、生産者の所得向上及び安定した収入の確保を目指す。</p> <p>(1) 商品ラインナップの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存商品のブラッシュアップ ・新商品の開発 <p>(2) 販路開拓及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会、商談会への参加 ・地域イベントへの出展 <p>(3) 組織の強化及び生産体制の効率化、省力化による低コスト化に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合の株式会社化 ・生産体制の効率化の検討 ・設備導入の検討 ・設備の導入 					
事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>有限責任事業組合 LLPしまんと</p> <p>【関係機関】</p>					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	商品ラインナップの充実	・既存商品のブラッシュアップ ・新商品の開発				
	販路開拓及び販売促進	・展示会、商談会への参加 ・地域イベントへの出展				
指標・目標	項目（期末：3月末）	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	売上高	29,000千円	32,710千円	34,910千円	37,500千円	40,000千円
指標・目標	【設定根拠】	【推計の考え方】				
		<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業売上に当計画により開発された商品の売上を合算 ・商談会、展示会、既存得意先への提案を行い販路拡大に努める <p>【考え方】</p>				

総事業費等	総事業費	千円	(うち 28年度	千円)	
	(内訳 国：	県：	市町村：	その他：)
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）				
	国：	県：	市町村：	その他：	人的支援：

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名 関連素材	地域食材（はちきん地鶏、乾燥シイタケ等）
------	------	-------------	----------------------

現状・課題	<p><現状></p> <p>(有)和は、これまでに高知県産のニラと豚肉を使用した「翡翠餃子」、餡に肉を使わずカツオを使用した「カツオ餃子」、「ぶしゅかん」を使用した餃子のタレを開発し、四万十市の農商工連携プロジェクト推進支援事業を活用しながら、県外の商談会や展示会等への出展、県内量販店での試食販売や地域イベントへの出展等を積極的に行い、徐々にではあるが県内外での販路を拡大している。</p> <p>しかし、製造能力にはまだ余裕があり、さらなる販路拡大を図る必要がある。また、現在の商品のみでは今後の外商活動において苦戦を強いられることが想定される。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 商品ラインナップの充実 販路開拓、拡大（B to Cに向けた宣伝・広告の拡充）
今後の方向性	<p>商談会等を通じた販路拡大を優先に進めていくためには、商品ラインナップの充実が必要不可欠であり、当社のコンセプトである「地域の食材にこだわり地域色豊かな加工食品の開発」に沿った商品開発を予定している。</p> <p>現時点では、土佐はちきん地鶏を使った餃子・焼売・ハンバーグ、乾燥しいたけを使った餃子、土佐はちきん地鶏と乾燥しいたけを使った肉まんの計5商品を段階的に開発していく予定としており、経済産業省の「地域産業資源活用事業」の認定申請中、認定後補助金申請を検討。</p> <p>新商品の販路については、既存販路を足掛かりとし、テストマーケティングを実施しながら、これまでと同様に、商談会や展示会への出展、量販店での試食販売等を行っていく。</p> <p>なお、現在、新商品開発・既存商品のブラッシュアップ・パッケージやPOPの見直しをするために「目指せ！弥太郎商人塾」第6期新商品開発コースを受講中である。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	素材の特性を活かした地域色豊かな冷凍加工食品の開発・製造・販売事業
	関係市町村名	四万十市

事業の概要	<p>地域色豊かな食材を活用した冷凍加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。</p> <p>(1) 商品開発及び改良</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発、テストマーケティング、商品の改良 <p>(2) 販路拡大及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会、展示会への出展 地域イベントへの出展 パンフレット等の販売促進ツールの作成 量販店等での試食販売 <p>(3) 生産体制の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな生産施設整備の検討 6次産業化に向けた取組の検討 				
	事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>有限会社 和</p> <p>【関係機関】</p>			

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	商品開発及び改良	商品の開発、テストマーケティング、商品の改良	→			
販路拡大及び販売促進	商談会、展示会への出展 地域イベントへの出展 量販店等での試食販売 パンフレット等の販売促進ツールの作成	→			商談会、展示会への出展 地域イベントへの出展 量販店等での試食販売	→
生産体制の強化・充実			新たな生産施設整備の検討	→ 新たな生産施設整備 6次産業化に向けた取組の検討		

指標・目標	項目 (期末：5月末)	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
	売上高	14,680千円	16,414千円	19,076千円	23,852千円	31,000千円
	うち既存商品分	14,680千円	15,414千円	15,876千円	16,352千円	16,500千円
	うち新商品分		1,000千円	3,200千円	7,500千円	14,500千円
【設定根拠】	<p>【推計の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存商品分は、現時点の対前年比の伸び率を参考に、今後の外商活動等の事業展開を考慮して算出した。 新商品分は、当計画により開発する商品の売上目標とした。 ※既存商品分は、餃子と弁当等の仕出しの売上額の合計額である。 <p>【考え方】</p> <p>商談会、展示会、既存得意先への提案を行い販路拡大に努める 高知フェアなど催事などに積極的に参加し商品PRに努めつつ売り上げの拡大を図る</p>					

総事業費等	総事業費	千円	(うち 28年度 千円)	
	(内訳 国： 県： 市町村： その他：)			
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）			
	国： 県： 市町村： 人的支援： その他：			

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	三原村	素材名 関連素材	どぶろく 三原米、農家民宿
------	-----	-------------	------------------

現状・課題	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三原村は昔から米どころとして知られているが、米価低迷による農業所得の減少が深刻な問題となっていたため、米の消費拡大と農業所得の向上を目指し、三原米に付加価値を持たせた商品開発に取り組み、平成16年に村が濁酒特区の認定を受け、平成17年10月よりどぶろく造りが始まった。 ・現在7戸の農家がどぶろくを製造していて、それぞれ独自の商品名を持っている。 ・地域の資源を活用し、地域の歴史を復活させたこの商品は、三原村を代表する特産品として村外にも知られるようになり、それがもたらす交流人口の拡大による経済的な波及効果も生まれてきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競合する生産者の増加等により販売が伸び悩んでいて、販路拡大や新たな取組等が求められている。 ・任意組織「三原村どぶろく組合」が組織されているが、販売面では事業者間で統一されておらず、7軒が1つになっての販売戦略の構築が求められている。 ・毎月1回以上出店している村外のイベント等では、販売に出ていくことが負担になっている。 ・組合の事務の負担が生産者の重荷になっている。 ・どぶろく農家の高齢化が進み、後継者の育成が課題である。
	<p>今後の方向性</p> <p>商談会及びイベントへの出展や観光振興等により村内産どぶろくの新たな販路の拡大を図ると共に、販売面や事務面等の体制強化及び効率化を図り、どぶろくを活用した地域活性化につなげていく。</p> <p>(1) 商談会及びイベント等への出展や観光客の誘致による交流人口の増加等により、新たな販路の拡大を図る。 (2) 組合の法人化等により販売、事務、人材育成等の体制強化及び効率化を図る。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	三原村のどぶろくによる地域活性化事業
	関係市町村名	三原村

事業の概要	<p>地域の特産品である「どぶろく」にかかる村内の組織体制を強化し、地域が一体となって販売促進を図ることで地域活性化につなげる。</p> <p>(1) 販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種展示会・商談会等への参加 ・地域観光資源との連携等による販促活動の展開 ・どぶろくを使った加工品の開発及び販売 <p>(2) 体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織・販売体制の強化 ・人材育成
-------	--

事業主体等	【事業主体】	三原村どぶろく組合
	【関係機関】	三原村、三原村商工会

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
			販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者等が連携した販促活動等の展開 ・観光イベントや農家民宿と連携したPR・販売の実施 ・どぶろくを使った加工品の開発及び販売 	→	
組織体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・組織・販売体制の強化 	→		<ul style="list-style-type: none"> ・組織・販売体制の強化 ・人材の育成 	→	

指標・目標	項目（期末：12月末）	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
		売上高	4,540千円	5,900千円	7,270千円	8,630千円
【設定根拠】	【推計の考え方】	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業売上に当計画により増加する売上を合算 ・展示商談会への出展、村内への観光客の誘致、販売体制強化等を行い販路拡大に努める 				
	【考え方】					

総事業費等	総事業費	千円	(うち 28年度	千円)
	(内訳 国： 県： 市町村： その他：)			
備考	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 市町村： 人的支援：		
	その他： 人的支援：			

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	三原村	素材名 関連素材	トマト
------	-----	-------------	-----

現状・課題	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（株）ベストグローウは、三原村にある四万十みはら菜園で栽培されたトマトのうち、カゴメに出荷しているものを除く規格外品を独自に販売するために、平成24年5月に設立された。 ・売上の大半を占める青果での販売の他、トマトジュース、ドレッシング、マヨネーズの3種類の加工品を販売しており、ジュースは自社で製造しているが、ドレッシングとマヨネーズは外注している。 ・平成26年度の売上高は3,285万円。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、四万十みはら菜園におけるトマトの生産量がH28年以降四万十町において増加する見込みであり、（株）ベストグローウで取り扱う規格外品の量が増加するので、当品及びその加工品の販路確保が課題である。 ・増加する加工品の生産体制強化や消費者のニーズにあった新商品の開発や既存商品の磨き上げ、人材の確保育成も課題である。
	<p>今後の方向性</p> <p>生産体制の充実強化を図るとともに、販路拡大を推進し、消費者ニーズに合った新商品の開発も進めていくことで、地域産トマトの加工販売を推進する。</p> <p>(1) 事業計画の作成、施設・設備整備、人材の確保・育成による加工品の生産体制の充実強化を図っていく。トマトジュースの生産拡大の他、現在外部に生産委託しているドレッシングやマヨネーズの自社生産も進めていく。</p> <p>(2) 各種展示会や商談会への参加等により県内外のスーパー等への販売を促進し、販路の拡大を図る。</p> <p>(3) 消費者ニーズに合った新商品の開発を進める。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	地域産トマトの加工・販売の推進事業
	関係市町村名	三原村

事業の概要	<p>地域産トマトを活用した加工品の生産体制を強化するとともに、地産外商による販路拡大を進めることで、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。</p> <p>(1) 生産体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場の増設 ・加工機械の設備導入 <p>(2) 販売促進と新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会・展示会等への参加 ・新商品の開発 ・既存商品の磨き上げ
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>株式会社ベストグローウ</p> <p>【関係機関】</p>
-------	--

取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
生産体制の充実・強化	・事業計画の作成	・施設・設備等の整備	・生産体制の強化	→	
販売促進と新商品の開発	・各種展示会・商談会等への参加 ・新商品開発	→			

項目 (期末：月末)	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
売上高	3,500万円	4,000万円	5,500万円	6,500万円	7,000万円
【設定根拠】	<p>【推計の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存事業売上に当計画により増加する売上を合算 ・展示商談会、既存得意先への提案を行い販路拡大に努める <p>【考え方】</p>				

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち 28年度 0千円)</p> <p>(内訳 国： 県： 市町村： その他：)</p>
	<p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援：</p> <p>その他：</p>
備考	

有望素材シート（28年度追加分）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	黒潮町	素材名	天日海塩
		関連素材	

現状・課題	<p>＜現状＞</p> <p>現在、黒潮町では海、山、川の豊かな自然環境を活かした観光情報発信や自然体験による観光客誘致、特産品開発・販売による外貨獲得を図りながら地域経済の活性化につなげる取組を推進している。</p> <p>また、町の総合振興計画のシンボルプロジェクトの一つとして「黒潮印」の商品開発があり、その根幹を成す「さしすせそ計画」では、町内にある素材で作ることができる和食の基本調味料（砂糖、塩、酢、醤油、味噌）と組み合わせた地域資源の高付加価値化や関連事業者との連携等から各分野の活性化推進を図ることとしている。</p> <p>地元企業の一つである（有）ソルティープは、太平洋から汲み上げた海水から天日海塩を製造している、創業30年の製造事業者である。一般的な自然塩とは異なり、太陽と風の力のみで海水から塩を結晶化させるという全国的にも珍しい製法で製造される天日海塩は、都市圏を中心に、レストランや和食店、小売業者、卸業者、個人等全国から発注があり、生産が間に合わない状況となっている。</p> <p>また、塩作り体験（観光メニュー）も実施しており、年々、観光体験者数が増えてきている。</p>
	<p>＜課題＞</p> <p>1) 生産量の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対する供給量（生産量）が絶対的に不足している。施設規模（生産能力）及び人員（スタッフ数とスキル）がネック。 ・生産量の不足から、販促活動や広報（インターネット等の活用）活動が積極的に行えない（欠品の恐れがある為）。 <p>2) 観光体験施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨天時対策及び高齢者、障害者等に配慮したバリアフリー化。
今後の方向性	<p>下記を行っていく中で、自社や連携事業者の利益拡大や雇用促進、町の交流人口の拡大に寄与する。</p> <p>1) 施設・設備等の整備（製塩施設、結晶ハウス、観光体験施設）</p> <p>2) 販路開拓・販売促進、告知活動の活性化</p> <p>3) スタッフ雇用及びスキルアップ、育成</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	天日海塩を活用したビジネス推進事業
	関係市町村名	黒潮町

事業の概要	<p>黒潮町の特産品づくりの取り組みとして推進する『さしすせそ』計画の中心的な役割を担う天日海塩の増産体制を整備し、加工品の増産や新たな商品の開発を行うとともに、塩に関連した観光体験事業を強化、充実させることで、黒潮町の新たな地域ビジネスを確立し、他事業者と連携を図りながら、地域の所得向上につなげる。</p> <p>(1) 施設・設備等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製塩施設、結晶ハウスの整備 ・観光体験事業に係る施設整備（雨天対策及びバリアフリー化） <p>(2) 販路開拓・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、ポスター作成 ・HP制作・作成 ・連携事業者との協働による商品開発及び各種商談会への参加 <p>(3) 担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ雇用及び人材育成
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】</p> <p>有限会社 ソルティープ</p> <p>【関係機関】</p> <p>黒潮町</p>
-------	---

取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
生産施設の拡大	・製塩施設整備	結晶ハウス整備検討	⇒	結晶ハウス整備	
体験施設の整備		体験施設の整備検討		体験専用の結晶ハウス整備 雨天時対策及びバリアフリー化	
販路開拓・販売促進	・各種商談会への参加 ・連携事業者との協働による商品開発				⇒
	・パンフレット及びポスターの作成			ホームページの作成	
担い手対策	・製塩作業を実施しながら人材（担い手）の育成				⇒

項目（期末：2月末）	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32～】
売上高	15,000千円	18,000千円	20,000千円	23,000千円	24,000千円
【設定根拠】	<p>◆売上高 H27：12,000千円（年間製塩量：4t） （棚数：178個）</p> <p>【推計の考え方】 増設する棚数（H28年度：76個、H30年度：48個、H31年度：48個）及び塩年間生産量（21.3kg/棚）、施設整備を考慮した年間稼働日数（H30、31年度は9カ月間）から塩生産量を算出し、売上高を推計。</p>				
	【考え方】				

総事業費等	<p>総事業費 千円（うち 28年度 千円）</p> <p>（内訳 国： 県： 市町村： その他： ）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県： 人的支援： その他：</p>
備考	